

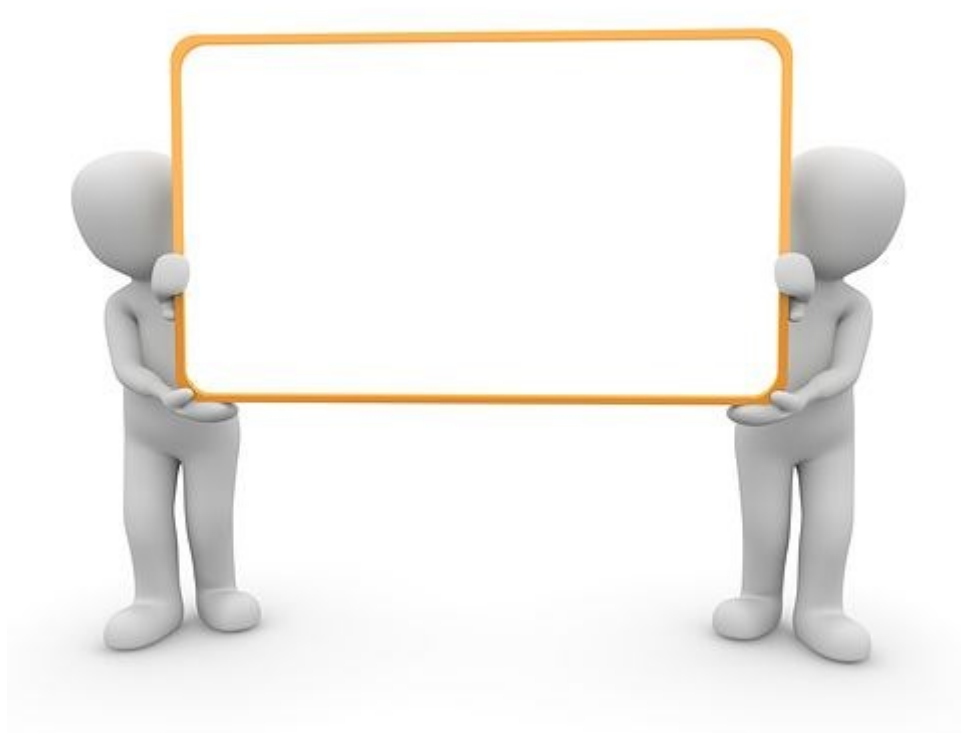
# 三章

誰も知らない

世界史勉強の

ポイント

結局世界史の勉強のポイントはなんなのか



結局世界史の勉強において大切なのはなんなのか。

これ実は、**超重要**です。

これを知っておくと、他の教科の勉強にも役立ちます。

もったいぶってもしょうが無いので言ってしまうと、**単純化**と**視点の転換**です。

世界史の勉強のイメージである「暗記」はこの二つの補助的役割を担っているだけです。

## 単純化

単純化するとは、教科書で説明された事項を「**要はこういうこと**」に変換する作業です。

単純化は理解に直結します。

その前に、先ほどから理解が重要という話をしていますが、理解ってなんじゃという話ですよ。

理解しているとは、例えば、カリフってなに？と聞かれた時に、「ムハンマドの後継者でイスラーム教の権威だよ。」というふうに簡潔に答えられる状態のことです。

「十字軍ってなんで起こったの？」のような、流れや出来事も、要約して人に説明できるというのが理解です。

もうお気づきかもしれませんが、

**「理解できている＝単純化できている」**

という公式ができるんですよね。

教科書の目次、または索引のページを開いて、目に入ったものを説明  
できますか？

もしも単純化できなければ、**理解**が足りていません。もちろん、用語  
を覚えるというミクロな暗記も必要です。

しかし、世界史の勉強がそれだけになってしまうと、論述問題、説明問  
題に対応できずに頭打ちになってしまいます。

志望校の試験に論述問題、説明問題がなかったとしても、物事の繋が  
りや国家間の関係を知っているか知っていないかだけで、用語  
の覚えやすさも雲泥の差になってしまいます。

理解パートで**アクティブラーニング**をしようと言ったのは、この単純化  
ができるようになって欲しいからなんです。

クイズや、思い出す練習は内容が理解できていないといけませんよ  
ね。

この単純化ができるようになれば、復習回数を少ない時間で増やせます。単純化の大事さが分かっていただけましたか？

しかも数学や理科の理数系教科、国語、英語、人に話をする時にも役立つコスパ最強の技術なんです。

例えば数学だったら、具体的な問題ばかり解けても意味がなくて、基本的な公式の運用が重要ですよね。

本番の試験では、問題集と同じ問題は出ないわけで、「要はこうだよ  
ね」という抽象的なことが分かっていないと、どれだけ問題集をこなし  
たとしても解けない訳です。

枝や葉っぱを生やすことが重要なのではなく、木の幹をしっかり捉え  
ておくことが肝なのです。



また国語や英語でも、読んだ文章を要約する問題が出ても、「要はこうだよ」という単純化ができていれば、ポイントをとらえた要約ができます。

さらに、人に話をする時も、伝えたいことがはっきりしているので、「結局なにがしたいの？」と言われずに話ができるのです。

単純化はどの教科にも応用可能だということが分かっていたければ、あなたの他の教科も伸びる可能性があります。

## 視点の転換



視点の転換は、仕上げのパートで使っています。単純化できて、しっかり説明できる人でも、じゃあこの制度史は？農業史は？と聞かれたら、口ごもっちゃうんですよね。

だから、仕上げのパートで問題演習をして頂くことで、こういう視点もあるのか、と気づき、異なった切り口で勉強を進められる訳です。

それに加えてもう一つ話したいことがあります。それは、問題を出す側の視点に立ってみるということです。

論述問題の対策のところでも言いましたが、大学側は何を答えて欲しいんだろうと考えてみるのが答えを出す上で重要なんです。

暗記科目としての世界史はこの視点の転換を忘れがちです。

しかし、日頃から「これとこれの違いは問われそうだな」とか「ここ混乱しやすいから先生出してくるかな」とか、

思いながら勉強していると、論述問題だけでなく、一問一答のような問題形式の試験でも、答えやすくなるんです。

何が言いたいかというと、日々漫然と読んだり、アウトプットするのではなく、考えながら勉強して欲しいのです。

考えながらは疲れます。しかしこれは、濃密な勉強ができれば1日3時間でも合格するというようなことが言われる所以なんです。

読む系の参考書を読む時も、

この一周は内容を大体掴むために読もう、

この一周は繋がりを意識しよう

この一周はあやふやなところを重点的に読もう

この一周は制度を中心に追おう

この一周は違いを意識しよう

など、毎回視点を変えて目的を持って読んで下さい。

問題集でも同じです。そういう風に視点を変えて行くことによって、視野が広がります。

そこで最初の話に戻ってくるわけですが、視野が広がると、読む時に制度史や農業史にも注目できていくんです。

視野を広げるという意味で問題演習をしてもらうのですが、やっぱり気づかなければ「間違えちゃった」で終わってしまうんですよね。

「間違えちゃった。なんで間違えたんだろう。制度があんまり理解できていないな。」

じゃあ、制度の移り変わりという視点でナビゲーターを読んでもよ  
う。」ここまで考えて欲しいのです。

また、この視点という概念も他教科やビジネスなどに応用できます。

大学側は何を求めているか考えるというのは、大学受験全般に言えま  
すし、問題文を正確に読み解いて、何を答えて欲しいか掴み取るとい  
うのは、答えを出す上での前提条件ですよ。

ビジネスにおいても、お客さんは何を求めているんだろうということを  
考えられないと、お金儲けできないわけです。

このように視点の転換は重要であり、視点の転換を癖づけるには、「何を求めているだろう」と考えることが重要なのです。

まずは問題演習で視点の転換に慣れて、その後で考えることを意識してみてください。

次章では各分野の攻略法を紹介していきます。詰まっている分野があるなら必見です



